

令和2年度第1回亀岡市総合計画審議会進行管理部会 議事要旨録

日 時：令和2年7月20日（月）午後2:00～4:00

場 所：亀岡市役所6階 603会議室

出席者：原田部会長、手塚副部会長、浅田委員、大槻委員、木村委員、黒田委員
渋谷委員

欠席者：今里委員

議 題：1 開会

2 部会長の選出

3 副部会長の指名

4 議事

（1）令和2年度 進行管理・行政評価について

（2）令和元年度行政評価の反映状況について

（3）第5次亀岡市総合計画の進行管理について

（4）その他

5 閉会

1 開会

2 部会長選出

事務局

- ・当部会長の選出を行う。亀岡市総合計画審議会条例第6条第3項に基づき、部会長は委員の互選によって定めるとされている。
- ・事務局から、引き続き原田委員を部会長へ推薦する。

—各委員意義なし—

部会長

- ・新型コロナウイルス感染症や大雨の災害が続いているところ。先ほど保津川を見てきたが、ごみだけではなく、流木が流れ着いており、山が荒れているなど感じた。今年度の進行管理部会の議論においては、防災に関わる部分もあるであろう。
- ・昨年度同様、活発な議論をお願いする。今年度就任された、新しい委員の皆様におかれてもよろしくをお願いする。

3 副部会長指名

事務局

- ・亀岡市総合計画審議会部会設置規則第4条第4項により、副部会長は委員のうちから部会長が指名するとされているので、指名をお願いする。

部会長

- ・引き続き、手塚委員に副部会長をお願いしたい。

副部会長

- ・日本中が大変なときであるが、京都サンガF.C.は勝っており、好調である。京都サンガF.C.のようにいいことがあるよう、祈念する。

4 議題

(1) 令和2年度 進行管理・行政評価について

○資料No.1～3 に基づき説明（事務局）

部会長

- ・「施策」など耳慣れない言葉があったかと思うので補足する。日本の行政の仕組みとして、方向性を示す「政策」がある。例えば、「安全・安心のまちづくり」などである。その次に「施策」というものが位置づけられている。「安全・安心のまちづくり」に対しても施策はいくつか考えられるが、例えば、「交通事故をゼロにする」といったものがあるだろう。そして、「事業」は、信号機やガードレールを設置する、といったレベル感である。進行管理部会においては、上から2つ目の「施策」を確認していくものである。そのため、何を行ったか、という活動そのものよりも、「それは効果があるのか？」といった、少し大きな視点で見ていく必要がある。
- ・また、資料No.1のP2をご覧ください。アウトプット・アウトカムに記載がある。アウトプットは、先ほど例に出したようなガードレールを何か所設置した、などである。何をどれだけ行ったか、というものであるため、測りやすい。アウトカムは、その事業によって市民の安心感がどれほど高まったか、満足度の向上、亀岡市の交通事故の量が減った、などである。効果を測るのは難しいところではあるが、どのような効果があったのかを、市と一緒に考えていく、またはどのような考え方をしたらよいか、を考えるものとなる。
- ・実際に施策・事業をチェックしていくのは、次回以降になるが、次回までに資料をお目通しいただければと思う。些細なことでも構わないので、気づいた点はおっしゃってほしい。

A 委員

- ・今年度で、第4次亀岡市総合計画の行政評価については一通り終わることとなる。新型コロナウイルス感染症の関係もあり、進捗が難しい事業もあるであろう。
- ・新しい生活様式によって、行政も変わらなければならない点があるだろう。計画策定時には、このようなことを考慮して作成していないと思う。苦勞していることがあれば、併せて説明してほしい。

部会長

- ・例えば、市民への周知や啓発の方法については、今までのやり方が通用しない、できない場合もあるであろう。

B 委員

- ・まちづくりにおいては、水害や気候変動など、人間やビッグデータの想定を超えてやってくる場合があるので、まちづくりにおいて、「まちづくり」だけをやっていくのではだめ。市として変化していかなければならないであろう。

(2) 令和元年度行政評価の反映状況について

○資料No.4-1、4-2 説明（事務局）

部会長

- ・進行管理部会委員からの意見、市民意見、理事者評価を踏まえて、取り組んでいること等について簡潔に記載されている。行政評価は、よりよい施策へ改善していくためのものである。

C 委員

- ・わからない点が多く、まず聞いていきたいと思う。

部会長

- ・聞いていくと、身近な案件もあると思う。また、言葉が難しくわかりにくいといったこともあるであろうが、わかりやすくしていくことも目的の1つにある。気づいた点があればおっしゃってほしい。

D 委員

- ・公園については、指定管理者を定めて管理にあたっていることが多いと思う。指定管理者は「民」であるため、儲けを考えるとと思うが、一般市民にとって、公園は「公共」のものであり、安く提供されるものといったギャップは生まれていないか？

事務局

- ・亀岡市が所有している公園については、開発公園と都市公園がある。開発公園については、住宅地の中にあるような小さな公園であり、指定管理者を選定せず、地元で管理をしてもらっている。都市公園については、収益性があるもの、ないものに分かれている。利用料金がなく、収益性がないものについては、維持管理に努めていただいている。一方で、運動公園のプールなど、収益が得られる分については、その部分だけ別の指定管理者へ委託している。そのいくつかの公園については、事業者の努力によって収益が出るようになってきている。皆さんに広く使用いただける部分と、収益性がある部分については、分けて指定管理を行っている状況である。

部会長

- ・どこの自治体もお金がない状況であるのに加え、今までは近所の児童公園などは地域で草刈りなどができていたが、高齢化によってそのようなこともできなくなっている。そのような状況の中で、都市公園のような公園が適切なかどうか。その点について、昨年度も議論したところである。

A 委員

- ・開発公園において、子どもが遊んでいるのを見ることがない。このような時代になり、例えば、ラジオ体操でもうるさいといった声があり、公園が使いにくいという話は聞く。公園の使い方を地域・住民で考え直す必要があるのではないか。公園を整備しても、使う人がいないのであれば何をしているのかわからない。今の時代にあった公園の使い方を地域・行政で考える必要があると思う。
- ・ガレリアのエイジレスセンターに幼児を対象とした子どもの遊び場を市長が検討している話を聞く。雨でも遊べる室内公園を今後整備していくことになるが、そういったものが今の時代にあったものではないか。屋外の開発公園など、一定の区画を整備する中で、家が建ちにくい場所に公園があるのが現状ではないか。それでは、使い勝手が悪くなってしまう。
- ・地域のコミュニティが盛んになるよう、小さいお子さんから高齢者まで、どのような使い方を希望しているのか聞きながら公園管理のあり方を考えてほしいと思う。

部会長

- ・元タスタジামの予定地だった場所については、今「田んぼの公園」を考えているという話を聞いた。全国的にもこれは珍しいと思う。駅北にできた公園は、遊具もあるが、主に芝生である。従来のブランコや砂場といったタイプではない公園ができたのは、亀岡にとってもよいきっかけになるのではないか。
- ・家の近所の公園は昭和の公園の雰囲気だが、子どもたちは遊びまわっている。

A 委員

- ・使われているのであればよい。公園ができたころには、子どもも小さく、公園・遊具が使われているが、子どもは大きくなり、次の世代が住んでいないことから、子どもが地域におらず、遊具が使われていな

いことがある。芝生など、今の時代にあった公園にし、管理を変えてほしい。

- ・京都・亀岡保津川公園の整備については、アユモドキをどうするか専門家会議が開かれているかと思うが、その方向性が決まらないと整備が進まないのかと思う。

部会長

- ・今年度の事業評価を行うにあたって、いわゆる男女共同参画、ジェンダーギャップ、性差の解消が必要かと思う。
- ・亀岡市もSDGs未来都市に選ばれたところ。京都市や大阪市のこのような会議の参加者は男女半々である。そうしなくてはならないと認識がされているからである。また、女性も大学の先生だけではなく、主婦の方や経営者の方もいらっしゃる。
- ・兵庫県豊岡市は亀岡市の参考になると思っている。豊岡市は、現在ジェンダーギャップの解消を重点的に進めている。「若者が地方から出て戻ってこない」とはよく聞く。若い世代が都会に憧れるのはよくあることであるが、戻ってこない点について、よく数字を見ると、豊岡市においては、転入が増えてきており、男性は戻ってきているが、女性が戻ってきていない状況である。その点をどう考えるかは大事である。
- ・公園においても同様である。例えば、小さな子どもを遊ばせる場所としての公園の機能が果たせていない、防災においても男性目線で設計された避難所や、女性が必要とする支援物資など、女性目線の視点も大事である。現在は男性視点の計画になっている部分があるかもしれない。

A 委員

- ・「女性 100 人会議」などの取組を、市長が行っている。以前、亀岡市社会福祉協議会の子育て支援センターでも市長との懇談を行った。子育て支援センターはお母さんと子どもと一緒に遊びに来ることが多い。その中で、どのようなものを希望しているのか、直接聞いていた。その中にはもっとこうしてほしいといった声だけではなく、舞鶴市の子育て交流施設あそびあむの紹介などがあり、市長もその日に視察に向かわれた。
- ・このような施設もよいとおっしゃっているときに、企業からの寄付があり、エイジレスセンターに子どもの遊び場を作ることになった。雨のときに遊ぶところがない、といったお母さん方の意見から生まれたものだと思う。
- ・お母さん方など、女性の声を聞くことは大事だと思う。そうしないと今の時代にあった公園などができないと思う。

部会長

- ・最近豊岡市役所に行ったことはあるか？豊岡市役所の前は、以前は駐車場であったが、今は芝生の広場になっており、自由に子どもが遊べるようになっている。これは「誰のために働いているのか？」という市役所職員向けのメッセージである。
- ・駐車場は、我々大人の目線でできたものだと思う。一番大事なところを一番大事な人のために使おう、という考え方をしている。そういった発想が今後大事である。

A 委員

- ・現在、亀岡市役所の軽自動車の駐車場となっている場所は、亀岡市庁舎ができた当初は、市民プラザといい、コミュニティ組織のために使用する予定であった。現在もステージはあり、市役所が休みの際は使用でき、集えるようになっている。

部会長

- ・亀岡はいいところもたくさんある。外の人からの視点は大事である。以前、南丹市の方から亀岡が積極

的な取組をしている点や、新型コロナウイルス感染症に係るお知らせ等、公式に早く情報を示すことで、根拠のない噂が出ないようにしている点についてさすがだな、と言われた。自分のまちが褒められると嬉しく思う。周囲の評価や、どれだけメディアの取り上げてもらったか、なども指標を取り入れてもよいのかなと思う。

- ・ 亀岡市がメディアに取り上げられた件数は最近増えたと思う。

A 委員

- ・ メディアに取り上げられると、故郷を誇りに思うのではないかな。
- ・ また、市民の求めている情報をタイムリーに出すことは、情報発信として必要である。タイムリーに伝えることは、市民満足度にも繋がるのではないかな。一方で、人権に関する部分は気をつける必要があり、市民にも注意喚起をする必要がある。

部会長

- ・ 昨年度まで、PTA 会長をしていたが、子どもや若い世代の声を積極的に拾う必要がある。総合計画審議会に委員として高校生が入っている市などもある。

C 委員

- ・ コロナ禍において、子どもたちは 3 カ月ほど休校であった。子どもが外で遊ぶと、うるさいと苦情がある。子どもたちはずっと同じことをし続けるのではなく、危険なことなど、いろいろなことをするため、それを心配する大人がいるが、全て学校に苦情が入る。しかし、そうではなく、大人が子どもに注意ができるまちづくりができないのかなと思う。関東で、子どもを「道路族」と呼ぶことがあると聞き、びっくりした。それは、子どもがボール遊びなどを道路で行い、うるさいからそう呼ぶとのことだ。
- ・ 自分は京都市の出身であるが、各町 1 つ、即ち 150~200 メートル毎に市が管理しているグラウンド付きの公園がある。市の規模にもよると思うが、亀岡市においてももう少し公園ができればと思う。
- ・ 曾我部に住んでおり、以前公園ができると噂があったが、子どもがうるさいと、お年寄りが嫌がる。それは悲しいと思う。
- ・ 亀岡運動公園近くに広場があるが、ゲートボールをしており、子どもが遊べない。そして、借りているのか、それとも独占しているのかわからない状況。また、夏になると駐車場になってしまい更に、遊ぶ場が少なくなってしまう。

部会長

- ・ 地域に人を呼ぶ要素として、教育環境は大きなウェイトを占めるであろう。コロナ禍において、私立高校はオンライン授業がすぐに始まったが、公立中学は休校といった例もあり、そうすると、私立に進学しようとするのではないかな。亀岡の立地からすると、そのように考える人は多いかもしれない。小中学校の教育環境に満足できず、引越しをする例も聞く。それは、学校の先生の頑張りが足りないというのではなく、どうやって決めているのかといった社会の仕組みに切り込む必要がある。

C 委員

- ・ 地元住民の自治会が決定するものや、状況把握を行う会議においてはお年寄りが占めてしまう。若い世代は会議に中々出席できず、把握できないまま経過してしまうのではないかな。京都先端科学大学から、土地を一部公園に使用してよいといったお話があったが、借りたもののなにもしないままに期間が終了してしまった。

部会長

- ・ 根が深い問題である。今後も気づきがあればおっしゃってほしい。

(3) 第5次亀岡市総合計画の進行管理について

○資料No.5-1～5-2に基づき説明（事務局）

E 委員

- ・市民意見や市民ニーズなどどのように聴取するか。

事務局

- ・第5次亀岡市総合計画を策定する前に、3000人の市民を無作為抽出し、アンケートを行った。現在案であり、実施時期を検討する必要があるが、アンケートを実施し、前回のアンケート時からどのように変わったのかを把握していきたい。
- ・行政評価を行う中で、毎年市民の方から意見をいただいている。第5次総合計画期間中の行政評価の方法については、進行管理部会にて御意見をいただきたいと考えているが、市民ニーズの把握という意味合いで、市民からの意見募集はしていきたいと考えている。

E 委員

- ・どれくらいの意見がくるのか。何百通なのか。それとも少ないのか。

部会長

- ・後者である。

事務局

- ・行政評価はジャンルを一定絞っていることもあり、専門的なこともあるため、多くの意見をいただいているという状況ではない。

E 委員

- ・多くの意見が届くようなシステムがあればと思う。
- ・令和元年度の行政評価について、市民から多くの意見があるにもかかわらず、取組状況が淡泊に感じ、残念に思う。

部会長

- ・京都市などでは、パブリックコメントを街頭で意見を集めるといったことをしている。
- ・亀岡市が公式ラインを始めたことはよかったと思う。割と皆見ている。ラインには投票するツールなどもあるので、そのような機能を活用し、市からマニア以外の人の意見を拾いにいくことが大事。

E 委員

- ・コロナ禍のメリットという言い方は良くないかもしれないが、情報を知るためにラインやFacebookのフォローが増えたと思う。それを上手く使ってほしい。細かい意見も拾えるのではないかな。

部会長

- ・先日、亀岡市の新型コロナウイルスの感染者が増えた。数字だけを見るとパニック反応が生まれた人もいたようだが、詳細を見ると、新型コロナウイルスの感染について情報が追えており、市中感染ではなかった。また、コメントなどで、パニックになった人へ科学的な根拠も付けてお知らせできる点は、このようなツールの良い点である。

部会長

- ・第5次亀岡市総合計画は、計画期間が2030年までである。SDGsの目標年次も2030年である。先日亀岡市もSDGs未来都市に選定されたところ。
- ・市の計画の上に国の計画、更に上に国連の計画があり、総合計画とSDGsは繋がりがあある。SDGsは特別なことではなく、して当たり前のことが書いてある。SDGsの視点を第5次亀岡市総合計画にも入れ込み、できているか否かを測るべき。
- ・総合計画は行政の計画としての面だけではなく、市民や事業者にも共有する計画である。例えば、男女共同参画は市だけで行っても意味がない。男性の育休取得率の向上や女性の管理職の増加など、民間と一緒に取組むべきものである。
- ・青年会議所においては、バスのつり革プロジェクトなど、SDGsに熱心に取り組んでいる。経験を踏まえていかがか。

E 委員

- ・SDGsありきの生活・事業ができている。SDGsは17のアイコンで分かりやすく、SDGsと市の計画を絡めると、市民にとって分かりやすいのではないかと。取り入れてほしいと思う。

部会長

- ・小学校から大学生まで、SDGsについて勉強している。また、市の計画は次の世代へ繋がるものである。SDGsありきの計画を作ろうと言っているわけではないが、自分のまちはSDGsにこのように取り組んでいるというのが分かりやすくなる。
- ・また、SDGsと絡めることで、総合計画自体を学校の教材として使用する機会も増えるのではないかと。そうすると、亀岡市の取組を理解しやすくなる。また、市の施策を身近に感じるとともに、公園が少ないなど、子どもが良い意味で疑問に思う機会も増えるのではないかと。
- ・進行管理部会においても、評価していく際にSDGsのどの目標に合致しているのかを見ることができる。SDGsを組み込むことで、外部と比べることができる。劣っている点については、引き上げていけばよい。

A 委員

- ・第5次総合計画期間中の進行管理は短期・中長期評価になると説明があったところ。
- ・以前は、ハード事業が多かったこともあり、できているかどうかが目に見えるため、市民の方にとっても評価がしやすかったと思う。スタジアムもでき、今後大きな開発はないと思う。これからは、今ある市の資産を活用しながら、ソフト事業中心に進行していくのかと思う。
- ・今後の評価については、始めに評価しなくてはいけないもの、ある程度進んでからでないとできないものがある。例えば、ソフト事業は、1～2年では成果が出ていないため、評価がしにくい。章・節で区切ると、分野がある程度は固まっているため、説明はしやすいと思うが、評価はしにくいと思う。
- ・今後進行管理部会にて、管理方法についても考えていければよいと思う。

部会長

- ・具体的に改善につながる、あるいは職員がやってよかった、こうしたらよかったと思う評価が必要。評価するのは難しい。

A 委員

- ・第5次亀岡市総合計画においては、第4次亀岡市総合計画と異なり、基本計画が前期・後期に分かれていないことから、どの時点での達成度を測っていくのか、現時点ではわからない。

部会長

- ・先ほど、SDGs を組み込んで考えたほうがよいとお話した。アウトプット、アウトカムについてであるが、「アウトカム」とはなにか、理解しきれていないと思う。例えば、アウトカムを SDGs の目標が使えるのではないか。SDGs はわかりやすい言葉で書かれており、指標として使用もできるのではないか。

A 委員

- ・策定部会において、SDGs をどれほど意識しているかまだわからないが、評価する進行管理部会としては、SDGs を意識してもよいと思う。

部会長

- ・例えば、SDGs には「安全な水とトイレを世界中に」という目標がある。日本の多くの自治体ではそれができていると思うが、大事なことはそれを保つことである。今後人口が減る中、現在の水道事業を維持するのはとても難しい目標である。今、水の供給ができてから OK ではなく、どうやって維持するか、といった次の議論へ続ける必要がある。
- ・その他、質問はあるか。

副部会長

- ・第 4 次総合計画と比べ、第 3 章のタイトルが異なる。それは、子育てをトップに出すという意欲の表れと理解してよいか。

事務局

- ・昨年度、亀岡市長選挙の際に、マニフェストの 1 番に子育て支援を上げていた。また、第 5 次亀岡市総合計画において、重点テーマを新しく設けているが、そちらでも子育てに関するテーマを上げている。子どもにとっても、子育てをする親にとっても暮らしやすいまちづくりというのを推していきたい。

副部会長

- ・市民にもそれが伝わるとよいと思う。

部会長

- ・計画どおりのまちづくりとなれば、とても良いまちができる。残念なのは、総合計画を知っている市民が少ないことである。

A 委員

- ・重点テーマと各章の対応はどのようなになっているか。

事務局

- ・対応については整理する予定である。

事務局

- ・第 3 部 施策の基本方針〔施策の大綱〕については、各章で分野がまとまっているところ、重点テーマについては、社会情勢・市民ニーズを踏まえ、分野横断的に実施していく施策として考えてほしい。第 5 次亀岡市総合計画における目指す都市像があり、それを達成するための重点テーマがある。その重点テーマが、第 3 部の複数の章に関連していくイメージである。
- ・SDGs との関連性をどうわかりやすく示すかについては、考えているところ。SDGs 未来都市に選定されたこともあり、目指す都市像などの文章内に記載をしていきたいと考えている。
- ・進行管理部会の委員の皆様へ、策定状況を報告する機会がなかったが、策定部会でも基本構想・基本計

画を一通り議論いただいたところ。7月29日に開催する策定部会にて、今までいただいた意見について、市の考え方をお返しする。8月下旬には、総合計画審議会を開催し、中間報告として説明をさせていただきたい。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、会議の開催ができなかったこともあり、策定状況は少し遅れているところ。

- ・第4次亀岡市総合計画と比較すると、構成は異なっている。異なっている点としては、まず、第1部において現在の策定経過において社会情勢を組み込んだうえで、第2部まちづくりの展望へ繋がっていく点である。
- ・今後、進行管理部会にて評価等いただくのは、第3部施策の基本方針や基本計画に記載している施策や、施策を推進していくための事業である。また、基本計画において、事業は掲載しない。別途、事業ごとに調書を作成し、事業が施策、政策にどれだけ貢献しているか、を進行管理部会にて議論いただきたいと思います。
- ・今までは基本計画が5年計画であったため、1度評価いただいたままになっていたように思う。10年計画にすることで、2章ずつ見たとしても、2回評価いただく機会がある。新たな社会情勢を踏まえ、基本計画に反映することができるかと思う。
- ・第4次亀岡市総合計画を策定当初は、府立京都スタジアム建設の話はなかったが、第4次亀岡市総合計画が始まってから、まちづくりに大きく関連する、スタジアム建設の話が出てきたため、各施策に反映する必要があった。後期基本計画には入れ込むことができたものの本来は、前期基本計画から入れ込むべきであったが、タイミングが難しかったこともあり、第5次亀岡市総合計画においては見直しができるようにした。

A 委員

- ・第5次総合計画における評価としては、章ごとに評価するイメージか。例えば、1年目は第1・2章を評価するということでよいか。

事務局

- ・然り。これまでも進行管理部会にて、評価をどう反映できるか、議論いただいたところである。前期基本計画期間中は、事業をピックアップして評価をしていたが、事業に対しての評価はできても、施策にどう貢献できているのか、評価がしにくくなってしまった。
- ・後期基本計画においては、施策ごとにどのような事業を行っているか、全て出した上で、各事業の状況、施策への反映状況を評価いただいた。
- ・先ほど、施策によっては事業として完了するものがあると指摘をいただいた。ハードの整備であれば、出来上がったことだけではなく、その後の活用が大事である。目的通りの利用がされているのかどうか、も見ていただきたいと思います。

部会長

- ・アウトカムの指標については難しく、以前は設定方法について庁内で研修も行った。
- ・SDGs 未来都市に選定されたことに関わらず、SDGsに関する研修を行う予定はあるか。SDGsについて、職員の理解が必要ではないか。

事務局

- ・現時点で研修は予定していなかったものの、SDGsについて職員が知っておく必要があると思う。研修という形をとるかはわからないが、浸透させていきたいと思う。

部会長

- ・研修に限らず、企業の方と一緒に学ぶということもできるのではないか。

- ・2025 年に関西・大阪万博があり、時期が近いので全員必死にやっている。2030 年までは時間があるようにないため、市役所内に留まらない取組をしてほしいと思う。

D 委員

- ・霧の芸術祭についてだが、どのようなことをしているのか、どのような思いでしているのか、市民に浸透していないように思う。今年度の予算についても、市議会にて理解が得られていない一面があった。現在は、市長が親分肌で引っ張っていく行政施策と感じている。予算がつけられたものについては、皆が理解できるような方向で事業決定をしてほしい。
- ・第 5 次亀岡市総合計画期間中も、新型コロナウイルスと 2〜3 年は共存していくことになるであろう。そのような中で、新型コロナウイルスとの共存・共栄の対応の仕方をどう第 5 次総合計画内に示すのか。

部会長

- ・事務局に質問してしまうことは多くあるが、審議会は、我々委員が議論するものと思う。
- ・おっしゃった点は非常に大事である。コロナ後の社会を考えると、今までの常識とはまったく異なる。日本中、世界中が模索している中、芸術祭など仕組みを一步先んじで行っており、意味のあることと思う。一方で、皆が理解しているものではない。しかし、皆が理解していないことはやめたほうがいい、というわけでもない。進行管理部会においても、進行管理の評価だけではなく、様々な話す機会をどう作るかが大事ではないか。
- ・瀬戸内国際芸術祭などは、期間を決めた展示会であるが、霧の芸術祭の面白い点は、期間がない点である。「芸術祭」という名前だが、芸術の振興策、新たな産業を起こしている政策と理解している。「芸術祭」という名前にしたことで、「展覧会」のイメージができ、わかりにくくなってしまっているのかなと思う。理解のためには、市役所が説明するだけではなく、アーティストが前に出ることも必要である。

D 委員

- ・総合計画が出来上がった際は、各自治会に説明する予定はあるか？

事務局

- ・来年度の地域こん談会で説明する予定である。時間も限られているので、概要の説明になると思う。

部会長

- ・自分の生活に係るものについては、関心があると思うが、実は全て関係している。地域こん談会だけではなく、色々な手法で宣伝し、理解・共感をしてもらうことで、市民が亀岡に係る営業マンになる。
- ・進行管理では、総合計画をどれほどの人が知っているのか、ということの評価する必要があるのではないかな。

D 委員

- ・進行管理部会は、半期に 1 回ほど、行った事業を評価する。今の世の流れを考えると、評価するタイミングには次の段階に行っているように思う。そうすると、進行管理部会の意味を考えてしまう。

部会長

- ・終わったものをチェックするだけではなく、最初の 1〜2 年は目標の立て方などをチェックするのでもよいかもしれない。
- ・事業調書を見ると、予算 0 で行っている事業もあり、状況がわからないものもある。

B 委員

- ・亀岡市以上に進んでいる行政・自治体はあると思う。IoT を入れている自治体もあり、そこで失敗をして

いるところもあるので、それを追うのではだめ。テクノロジーが発達し、時代ごとのニーズもあるが、人の生死など根幹に関わっていることもある。そのサポートを絶やしてはいけない。また、それがあつて人で人を招くことができるのではないか。

- ・ 少子高齢化に伴い、外国人労働者をどのように誘致するか。新型コロナウイルスの影響を受けていると思うが、亀岡に来てください、というのを外国の方へPR する必要があるのでは。

部会長

- ・ 先日、家の屋根を修理したが、足場を作るのは全員ベトナムの方であつた。

B 委員

- ・ 市のサポートセンターを立ち上げることに関わっている。現に亀岡市に 1,000 人ほど外国人の方が住んでいるが、住まれた当初は日本語がわからなかった。また、亀岡市としてサポートができていなかった。市長も外国人の方のサポートについて、意識している。

部会長

- ・ 群馬県太田市などは、7 か国語対応している。それが当たり前になるのかもしれない。

B 委員

- ・ SDGs は生命としての最終目標と思う。

部会長

- ・ SDGs の根本には、誰も取り残さないというものがある。施策は、一歩間違えれば、だれかにとってはメリットがあるものの、異なる人にとっては不利益が生じるということが起こり得るため、その視点は大事である。子育て支援を充実するイコール高齢者をないがしろにするというわけではないことをしっかりと伝えることが必要。

A 委員

- ・ 総合計画を市民の方に理解してもらうのは、なかなか難しい。自治会に説明しても、役員に対してであるので、そこから広がりががないと思う。良い総合計画を作っても、10 年間実施していくことが浸透していない。進行管理部会では、市民の立場から、進行管理、評価をしていかないといけないと思う。行政に批判は来ることがあるが、よかった、という評価は届きにくい。

部会長

- ・ 伝わってないからこそ、批判がくるのかなと思う。
- ・ 市役所だけでできることは限られている。SDGs の 17 番目には「パートナーシップで目標を達成しよう」というのがある。誰とどう組んでするのか大事。亀岡市は以前から市民協働に力を入れている。これからどのように進めていくか。
- ・ 市民協働の支援金について、今年度は新型コロナウイルスの影響もあるのか、応募が少なかった。企業だけではなく、市民団体も大変であり、応募の段階に進めなかったのではないか。「応募が少なかった」という事実から、「ニーズが少ないのでやめる」、「仕組み自体を変える」、といった分かれ道に直面することが多いのではないか。
- ・ 第 5 次亀岡市総合計画における事業においては、どこと組んで行うのか、など問うのもよいと思う。

A 委員

- ・ 損得勘定が働くため、自分に害が及びそうなことについては意見を言うと思うが、全体を見て意見を言

う人は少ないと思う。

- ・社会福祉協議会では、地域づくりの手助けをしているが、皆さんは自分の地域を守ることに精一杯である。高齢世帯や独居老人が増え、見守りや日々の生活の手伝いができないことにも困っている。
- ・亀岡市総合計画は市全体を考えているものであるが、このように生活に余裕がない人がいるのも事実である。我々は、地域に出向くようにしている。そうすると、困っているという声が聴けるため、部署につながるようにしている。自分で声を出しにくいこともあるため、聞きに行くことが大事。

部会長

- ・ブラゴミゼロの関係で、ハワイへ視察にいったが、ハワイには行政にアウトリーチ専門官という人がいる。自ら地域に出向き、声を聞く。日本は「広報・広聴」となっており、広報に重きがあるが、広聴する仕組みが大事だ。市としてマンパワーが足りないのであれば、社会福祉協議会と協力するなど、今既に行っていることもあるのではないかと思います。

A 委員

- ・前提になるのはコミュニケーション、信頼関係である。顔の見える環境を作ることが大事である。

部会長

- ・夕食を宅配するお店などがあるが、それは民生委員の役割を担っている一面がある。社会福祉協議会が、信頼を作るきっかけなど、そのような仕組みを作ることができればと思う。

A 委員

- ・それができると、良いまちになると思う。信頼関係ができることにより話が聞け、行政に活かせることもあるのではないかな。これからの行政においては、地域の方もっとコミュニケーションが取れる方法で進めてほしい。広聴についても、待っているのではなく地域に行ってほしい。日本は公務員数が少なく、難しい部分があると思う。

部会長

- ・評価時や調書にパートナーが誰であるか示してもらうのも手かもしれない。
- ・昨年行政評価を行った商工の取組で、市内の事業所をヒアリングに回った例があった。そのような取組をピックアップするのもよいのではないかな。

D 委員

- ・職員は地区の担当があるのか。

事務局

- ・各自治会に若手職員が入る、コミュニティ推進員がある。以前は地区担当員制度があり、幹部職員が地域に入り、自治会と一緒に施策をどうするか検討をしていたが、変更をした。市外に住む職員であっても、地域の実情を知るためにコミュニティ推進員になることもある。市の周辺部においては、住んでいる職員も少ないところであるが、研修を兼ねた形で、地域の事情を把握するとともに行政の制度等を伝える。

部会長

- ・亀岡市は支所がない。地元の人以外が遠くの会議に参加する場合などは負担もあると思う。

事務局

- ・コミュニティ推進員に加えて、災害時には各町要員として、自治会などに職員が詰める。自治会役員の方もいらっしゃるため、その際に地域の課題など話す機会になっているかと思う。

(3) その他

3 閉会

事務局

- ・次回の進行管理部会は、8月下旬から9月に開催を予定している。本日の議題事項について、所管課から説明し、評価をいただく予定をしている。
- ・また、総合計画審議会についても8月下旬頃に第5次亀岡市総合計画の中間報告を行う予定である。進行管理部会については、本日の報告を行う予定である。

以上